

公 開  
資 料 3

第 3 3 7 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和5年1月26日

日 本 学 術 会 議



# 公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
<b>Ⅲ 公開審議事項</b>						
<b>1. 委員会関係</b>						
提案1	(機能別委員会) (1) 科学者委員会運営要綱の一部改正 (小委員会の設置1件) (2) 小委員会委員の決定 (新規1件)	(1) 科学者委員会委員長 (2) 会長	5	科学者委員会における小委員会の設置に伴い、運営要綱の一部を改正するとともに、小委員会における委員を決定する必要があるため。	望月副会長	(1) 会則27条1項 (2) 内規18条
提案2	(分野別委員会) 分科会委員の決定 (追加1件)	第二部長	9	分野別委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	第二部長	内規18条
<b>2. 国際関係</b>						
提案3	令和4年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	11	令和4年度代表派遣について、実施計画を変更する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規21条
<b>3. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和5年度第1四半期】</b>						
提案4	学術フォーラム「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦：学術領域を超える課題と取組」の開催について	会長	13	主催：日本学術会議 日時：令和5年4～6月 場所：原則としてオンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要 ※本学術フォーラムは令和4年11月の第333回幹事会にて承認を受けたが、出演者の都合により、開催日を変更するもの。	—	内規別表第2
<b>4. その他のシンポジウム等</b>						
提案5	公開シンポジウム「地方におけるデジタル・ガバナンス—政治・行政・民主主義のアップデートに向けて」の開催について	政治学委員会委員長	17	主催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、科学研究費補助金（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）））「代議制民主主義のガバナンスの国際比較研究」（研究代表者：小林良彰） 日時：令和5年3月4日（土）14：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案6	公開シンポジウム「100年後の人類は？」の開催について	基礎医学委員会委員長	19	主催：日本学術会議基礎医学委員会IUPS分科会、機能医科学分科会、一般社団法人日本生理学会第100回記念大会実行委員会 日時：令和5年3月11日（土）13：30～16：00 場所：京都大学時計台百周年記念ホール（京都府京都市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2

提案7	公開シンポジウム 「これからの教育政策のゆくえーCSTI教育・人材育成ワーキンググループ「政策パッケージ」をめぐってー」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	21	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会、教育関連学会連絡協議会 日時：令和5年3月11日（土）14：30～17：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム 「数理科学の展望ー国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る」の開催について	数理科学委員会委員長	23	主催：日本学術会議数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会IMU分科会 日時：令和5年3月14日（火）11：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案9	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会 「潜在的なエネルギー・資源（Future Resource）に着目した学術研究」の開催について	科学者委員会委員長	27	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議、佐賀大学 日時：令和5年3月14日（火）14：00～16：15 場所：佐賀大学理工学部6号館1階講義室（佐賀県佐賀市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「グリーントランスフォーメーションに挑む応用物理：持続可能な未来社会に向けて」の開催について	総合工学委員会委員長	29	主催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会、公益社団法人応用物理学会 日時：令和5年3月15日（水）13：30～17：50 場所：上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「18歳と司法参加ー裁判員、検察審査員（仮）の開催について	法学委員会委員長	33	主催：日本学術会議法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会 日時：令和5年3月17日（金）13：00～16：00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム 「これからの半導体産業を牽引する人材育成と産学連携」の開催について	電気電子工学委員会委員長	35	主催：日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会、公益社団法人応用物理学会 日時：令和5年3月17日（金）13：45～18：30 場所：上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム 「With/Afterコロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組みー医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	37	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会 日時：令和5年3月18日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」の開催について	社会学委員会委員長	41	主催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会 日時：令和5年3月26日（日）13：30～16：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム 「計算音響学の目指すもの」の開催について	総合工学委員会 委員長、機械工学委員会委員長	43	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和5年3月27日（月）11：00～17：20 場所：日本学術会議講堂他会議室1室 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム 「地球上の環境変動と生物リズム」の開催について	基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長	47	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同生物リズム分科会 日時：令和5年4月16日（日）13：00～15：50 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「ヒトとサルの進化から考える社会と多様性」の開催について	統合生物学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長	49	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会 日時：令和5年6月17日（土）13：30～16：00 場所：東京大学理学部2号館講堂（ハイブリット開催） ※第二部承認	—	内規別表第2

#### 5. 後援

提案18	国内会議の後援をすること	会長	51	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。  ①第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム ②「土と肥料」の講演会 ③第19回日本社会福祉学会フォーラム ④化学工学会第88年会シンポジウム 「SDGs達成に向けた札幌宣言の実行—ありたい未来社会のための化学工学—」	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

#### 6. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年2月22日（水）13:30～開催。	53



科学者委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(分科会) 第2 委員会に、次の表のとおり分科会、小分科会及び小委員会（以下「分科会等」という。）を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。				(分科会) 第2 委員会に、次の表のとおり分科会、小分科会及び小委員会（以下「分科会」という。）を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
学術体制分科会	(略)	(略)	(略)	学術体制分科会	(略)	(略)	(略)
論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会	<u>1. 査読の意義・重要性についての検討</u> <u>2. 査読を実施する際の規範となる対応指針（投稿者、査読者、編集者など）について、分野間の違い等を含めた検討</u> <u>3. 査読の意義を貶める不正行為についての検討</u>	<u>20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者</u>	<u>設置期間：令和5年1月26日～令和5年9月30日</u>	(新規設置)			

	<u>4. 審議結果を取り まとめ、学術体制分 科会に報告するこ と に関すること</u>						
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)				(同左)			

附 則（令和 年 月 日 日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。



科学者委員会学術体制分科会  
論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会の設置について

小委員会名：論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会

1	所属委員会名	科学者委員会学術体制分科会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は、科学者委員会において「科学者の在り方」を検討事項の一つとしており、そのために「学術体制分科会」を設置し、学術体制に関する総合的な検討を行っているが、その中の一つの検討項目として、「研究インテグリティに関する、国内外の現状調査、課題の整理、今後の対応方策に関する検討」を挙げている。</p> <p>「研究インテグリティ」という概念は、従来「研究公正」という言葉で表現されていたものの拡張形態を表すもので、近年、いわゆる特定研究不正（捏造、改ざん、盗用）に限定せず、研究の公正さを担保するために考慮すべき事項をより広くとらえようとする考え方である。</p> <p>本小委員会では、従来の特定研究不正以外の事例が広がりを見せ、社会的課題になっていることに鑑み、まずは査読不正問題をテーマとして、学術の振興にとっての査読の意義、査読実施体制を支える規範的理念を明らかにし、現状の課題について問題提起を行う。この目的のため、第一線で活躍する外部の研究者や若手等も委員として加えて審議する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 査読の意義・重要性についての検討</li> <li>2. 査読を実施する際の規範となる対応指針（投稿者、査読者、編集者等など）について、分野間の違い等を含めた検討</li> <li>3. 査読の意義を貶める不正行為についての検討</li> <li>4. 審議結果を取りまとめ、学術体制分科会に報告すること</li> </ol> <p>に関すること</p>
5	設置期間	令和5年1月26日～令和5年9月30日
6	備考	新規設置

【機能別委員会】

○小委員会委員の決定（新規1件）

（科学者委員会学術体制分科会論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会）

氏名	所属・職名	備考
小長谷 有紀	独立行政法人日本学術振興会監事	第一部会員
小林 傳司	大阪大学名誉教授、大阪大学 CO デザインセンター特任教授／国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター長	第一部会員
松井 三枝	金沢大学国際基幹教育院教授	第一部会員
和田 肇	名古屋大学名誉教授	第一部会員
佐々木 裕之	九州大学生体防御医学研究所・特命教授、九州大学高等研究院・特別主幹教授	第二部会員
山本 晴子	独立行政法人医薬品医療機器総合機構医務管理監・理事長特任補佐	第二部会員
大場 みち子	公立ほこだて未来大学教授	第三部会員
堀 利栄	愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授	第三部会員
中村 征樹	大阪大学全学教育推進機構教授	連携会員

【設置予定：第337回幹事会（令和5年1月26日）、決定後の委員数：10名】

【分野別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
森山 美知子	広島大学大学院医系科学研究科教授	連携会員

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：13名】



### 令和4年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地／ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	2022年国際電波科学 連合(URSI)大西洋/ アジア・太平洋電波科 学会議	2022年 5月29日 ～ 6月3日 ↓ 5月28日 ～ 6月4日	グランカナリ ア (スペイン) ／ハイブリッ ド形式	芳原 容英 特任連携会員 (電気通信大学大学院情報 理工学研究科 情報・ネット ワーク工学専攻教授)	電気電子工学 委員会 URSI 分科会	<p><b>・会期の変更</b>            ※実施計画、派遣者については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。            ※現地出席者間の事前・事後の打ち合わせが用務に追加されたため。            ※同会議に代表派遣された小林一哉連携会員(中央大学理工学部教授)、八木谷聡連携会員(金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授)はオンライン出席のため変更なし(5月29日～6月3日)            ※現地出席</p>
2	国際数学者連合 (IMU)総会及び国際 数学会議 2022 等	2022年 7月3日 ～ 7月14日 ↓ 7月3日 ～ 7月6日	ヘルシンキ (フィンラン ド)／ハイブ リッド形式	清水 扇丈 連携会員 (京都大学人間・環境学研 究科教授)	数理科学委員 会 IMU 分科会	<p><b>・会期の変更</b>            ※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)、派遣者は第325回幹事会(令和4年4月18日)にて承認済み。            ※第325回幹事会后、主催者より7月3日～7月5日に出席を要請された。その後さらに7月6日の会議への出席要請が追加され、7月3日～7月6日に会期変更となった。            ※現地出席</p>
3	第14回国際人権ネッ トワーク隔年総会	2022年12 月頃	プレトリア (南アフリカ)	—	国際委員会	<p><b>・代表派遣の取止め</b>            ※実施計画については第322回幹事会(令和4年2月24日)にて承認済み。            ※今年度の開催なし</p>

	会議名称	会 期	開催地／ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
4	第 78 回国際地質科学 連合(IUGS)理事会及 び執行理事会	2023 年 2月 20 日 ～ 2月 25 日 ↓ 2月 14 日 ～ 2月 17 日	ナイロビ (ケニア) ↓ ベルファスト (英国)	北里 洋 特任連携会員 (早稲田大学教育総合科学 学院院招聘研究員)	地球惑星科学 委員会 IUGS 分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会期の変更</li> <li>・開催地の変更</li> </ul> ※実施計画については第 322 回幹事会(令和4年2月 24 日)、派遣者は第 331 回幹事会(令和4年9月 28 日)にて承認済み。 ※現地出席予定

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等  
【令和5年度第1四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和5年度第1四半期】 全1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案4	「カーボンニュートラル 実現に向けた学術の挑戦： 学術領域を超える課題と 取組」  (企画：カーボンニュート ラルに関する連絡会議)	令和5年4～ 6月	原則として オンライン 開催	要	要

※ 第333回幹事会承認済みの学術フォーラムについて、出演者の都合により、開催日を変更するもの。

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

- 1. 学術フォーラム（開催曜日未定1件） 全1件  
（内訳）※当該1件について、経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォー ラム	(土日)				
	(平日)				
	(開催曜日 未定)	1			
合計		1			

※ 本学術フォーラムは令和4年11月の第333回幹事会にて承認を受けたが、出演者の都合により、開催日を変更するもの。

日本学術会議主催学術フォーラム  
「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦：学術領域を超える課題と取組」  
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和5年4～6月
3. 場 所：原則としてオンライン
4. 委員会等の開催：なし
5. 開催趣旨：

カーボンニュートラル目標の実現には社会経済のあらゆる局面の変革が必要となります。こうした変革に向けた学術の課題はいかなるものなのか。学術領域をこえる課題に焦点を当て、主要な学術領域の研究者と行政関係者などステークホルダーが、変革に向けた学術の課題とその取組について報告し、議論を行います。

6. 次 第：  
趣旨説明（10分） ※連絡会議のメンバーから

講演

- ・気候の変化（と影響）を知り、予測する－その課題（15分）  
（案）

三枝 信子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長）

or 高薮 縁（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授、副所長）

- ・未来の経済社会像を描く（15分×2）

経済社会シナリオの課題

増井 利彦（国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域領域長）（案）

将来の社会像を社会の構成員とつくる

西條 辰義（日本学術会議連携会員、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長、総合地球環境学研究所特任教授）



or 中川 善典（日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群准教授）

- ・ バイオ経済社会、森林と木材製品の利用（15分×2）

森林の保全と利用の課題

丹下 健（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）（案）

建築物への木材利用の課題

木造建築の専門家または企業の技術者（案）

- ・ 気候変動を統合する企業経営（15分×1、10分×2）

- ・ 西尾 チヅル（日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授）（案）

- ・ 企業からみた課題（案）

- ・ 金融からみた課題（案）

登壇者によるパネルディスカッション

コーディネーター： ※連絡会議のメンバーから

（下線は、日本学術会議関係者）



## 公開シンポジウム

「地方におけるデジタル・ガバナンスー政治・行政・民主主義のアップデートに向けて」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治過程分科会、科学研究費補助金（基盤研究（A））「JESVII調査実施による選挙研究から代議制民主主義研究への展開とデータ公開」（研究代表者：小林 良彰）
2. 共 催：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科パブリックシステム・ラボ
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月4日（土）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
政治・行政のデジタル化は国だけでなく、少子高齢化や人口偏在といった課題を抱える地方においても重要な方策となっている。デジタルを通じた政策立案過程の高度化や市民参加の活性化を目指す上で、国内外の動向を確認し、活動の実態や課題、今後の方向性について、多様な立場で情報共有を行う。
9. 次 第：  
司会：谷口 尚子（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）  
  
14:00 開会あいさつ  
西川 伸一（日本学術会議連携会員、明治大学政治経済学部教授）  
  
14:05 報告「日本の政治・行政におけるデジタル化の動向と今後の方向性」  
宍戸 常寿（日本学術会議連携会員（特任）・東京大学大学院法学政治学研究科教授）  
  
14:25 報告「地方の政治・行政におけるDX」  
庄司 昌彦（武蔵大学社会学部教授）

- 14:45 報告「国内外におけるデジタル化の今後の方向性」  
岩崎 尚子（早稲田大学総合研究機構電子政府・自治体研究所教授）
- 15:05 討論・質疑  
石上 泰州（日本学術会議連携会員、平成国際大学法学部教授）
- 15:25 休憩（10分）
- 15:35 報告「取手市議会の取り組み」  
金澤 克仁（茨城県取手市議会議長）
- 15:55 報告「日本のデジタル・ガバナンスと Civic Tech の未来」  
関 治之（Code for Japan 代表）
- 16:15 報告「加古川市 decidim の取り組み」  
多田 功（兵庫県加古川市企画部政策企画課長）
- 16:35 討論・質疑  
中谷 美穂（日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部教授）
- 16:55 閉会あいさつ  
谷口 尚子（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
- 17:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「100年後の人類は？」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会 IUPS 分科会、機能医科学分科会、一般社団法人日本生理学会第 100 回記念大会実行委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）3 月 11 日（土）13：30 ～ 16：00
5. 場 所：京都大学時計台百周年記念ホール（京都府京都市左京区吉田本町）  
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

これまでの 100 年間、科学技術や医療の進歩により人類は寿命を延ばし、身体機能を向上させてきた。この公開シンポジウムでは 100 年後の人類の未来に想いを馳せながら、「老化のしくみ」を研究する三浦恭子先生（熊本大）、「人工冬眠」を目指す砂川玄志郎先生（理研）、「脳と機械をつなぐ」ことに挑戦している牛場潤一先生（慶應大）の 3 名の気鋭の研究者にご講演いただく。特に、これからの社会を担って行く高校生らの参加を募り、講演者を含めて参加者で広く未来について議論する場としたい。

9. 次 第：

13:30 開会挨拶

伊佐 正（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院医学研究科神経生物学分野教授、一般社団法人日本生理学会第 100 回記念大会大会長）

◇第一部講演

総司会 久保 義弘（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所教授、一般社団法人日本生理学会副理事長）

- 13:40 『最長寿・老化耐性・がん耐性齧歯類ハダカデバネズミの不思議』  
三浦 恭子 (熊本大学大学院生命科学研究部准教授)
- 14:00 『人工冬眠は人類に何をもたらすのか』  
砂川 玄志郎 (国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター  
チームリーダー)
- 14:20 『脳のしなやかさを科学する』  
牛場 潤一 (慶應大学理工学部生命情報学科教授)

休憩 (15分) (14:40 ~ 14:55)

◇第二部総合討論

ファシリテーター 丸山 めぐみ (大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学  
研究所特任准教授)

14:55~15:55 パネリスト：上記講演者に加えて

樽野 陽幸 (日本学術会議連携会員 (特任)、京都府立医科大学大学院医  
学研究科細胞生理学教授)

川口 真也 (京都大学理学研究科教授)

高校生 3名

他

15:55 閉会挨拶

鍋倉 淳一 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理  
学研究所所長)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」  
(IYBSSD2022) 連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「これからの教育政策のゆくえーCSTI 教育・人材育成ワーキンググループ  
「政策パッケージ」をめぐるー」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会高大接続を考える分科会、教育関連学会  
連絡協議会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月11日（土）14：30 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）に2021年8月に設置された教育・人材育成ワーキンググループにおいて、キックオフミーティングを含めて8回の議論を経て、2022年6月に「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」が取りまとめられた。「well-being（一人ひとりの多様な幸せ）」を実現できる「創造性あふれる社会に向けた学び」を目標に掲げ、教育の在り方の根本的な転換を図ろうとしたものであり、「政策パッケージ」という言葉が示すとおり、大きな3本の政策のもと46の施策と多岐にわたる内容を含んでいる。その後、本方針は文部科学省の審議会においても引き続き議論されている。

そのような状況において、当該政策パッケージをどのように読み解くことができるかを考えることがこのシンポジウムの目的である。WGメンバーからの、なぜ、このような議論が始まったのか、途上でどのような議論がなされたのかについての講演とともに、それに対して、教育研究者として、あるいは教育実践に関わるものとして、この政策パッケージをどのように評価するかなど、議論を深めたい。

9. 次 第：

司会

松下 佳代（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院教育学研究科教授）

挨拶

14:30 開会挨拶・趣旨説明

浜田 博文（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系（教育学域）教授）

14:35 報告1 『CSTI 政策パッケージを越えて：教育政策のこれからを考える』

秋田 喜代美（日本学術会議連携会員（特任）、学習院大学文学部教授）

14:55 報告2 『CSTI 政策パッケージを考える』

中嶋 哲彦（愛知工業大学工学部教授）

15:15 報告3 『子供たちの才能を学校と社会が認めて育む』

隅田 学（愛媛大学教育学部教授）

15:35 報告4 『文理のジェンダーギャップを問い直す』

濱中 淳子（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

休憩（10分）（15:55～16:05）

16:05 指定討論

篠原 弘道（日本電信電話株式会社（NTT）相談役、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）有識者議員）

16:20 質疑応答

16:55 総括・閉会挨拶

吉田 文（日本学術会議第一部会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

岡部 美香（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



公開シンポジウム  
「数理科学の展望－国際的展開と諸科学・産業との連携拡大を探る」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会IMU分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本数学会、一般社団法人日本応用数理学会、統計関連学会連合
4. 日 時：令和5年（2023年）3月14日（火）11：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

国際数学連合（International Mathematical Union, IMU）の加盟団体である日本学術会議が、IMU加盟国の数学委員会（Committee for Mathematics）として数理科学委員会IMU分科会を設置し、その活動を開始したのは2012年1月である。それ以来、IMU分科会は積極的にIMUにおける我が国の存在感の向上に努め、具体的な成果を挙げてきた。

一方、国内の学術の展望を示した提言『学術の展望－学術からの提言2010』の一部を成す報告『数理科学分野の展望』を数理科学委員会が発出したのは2010年4月である。以来、数理科学委員会は一貫して数学・数理科学の重要性を強調するとともに、諸科学・産業との連携研究の推進の在り方を審議し、2017年9月には『数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言』を発出した。産業界での数学の需要も高まり、数理科学人材育成も重要課題である。

本シンポジウムでは、第一部では我が国の数理科学研究の成果を報告し、専門家以外にも数理科学の研究について触れていただき、第二部では数理科学の可能性と諸科学・産業との連携研究推進について、各界からの要請や期待を伺い、共に話し合うことを目的とする。

(補足説明) なお、本シンポジウムの開催予定日である3月14日は、円周率にちなみ、国際数学デー (International Mathematics Day) と呼ばれ、IMUの下、世界中で一般向けの数学のイベントも開催されている。本シンポジウムはその趣旨に沿ったイベントではないが、数理科学の研究者のみならず、より一般の方にも我が国の数理科学研究の現状と将来性について知っていただく機会としたい。

また関連する行事として、翌15日から中央大学で日本数学会年會が開催され、数学者の参加が期待できる。また17日には同年會にて、「数学に関わる多様な研究支援についての情報・意見交換會」があり、文科省研究振興局基礎・基盤研究課 西山課長による「数理科学振興策について(仮)」の講演も予定されている。

## 9. 次第:

11:00-12:30 第一部 我が国の数理科学の国際的展開

第一部総合司會

清水 扇丈 (日本学術會議連携會員、京都大学人間・環境学研究科教授)

- ・開會の挨拶・趣旨説明・国際的活動の説明

小藺 英雄 (日本学術會議連携會員、早稲田大学基幹理工学部教授、東北大学数理科学連携研究センター教授)

- ・IMU関係者による講演

森 重文 (国際数学連合元総裁)

中島 啓 (日本学術會議連携會員(特任)、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授、国際数学連合総裁)

- ・国際基礎科学年関係者による講演

野尻 美保子 (日本学術會議第三部會員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授)

小谷 元子 (日本学術會議連携會員、東北大学理事・副学長)

- ・ICM講演者による講演

望月 拓郎 (京都大学数理解析研究所基礎数理研究部門教授)

緒方 芳子 (東京大学数理科学研究科数学科教授)

12:30-13:30 昼休憩

13:30-17:00 第二部 諸科学との分野横断研究・産業との連携研究の共通基盤を担う数理科学の在り方と将来展望

第二部総合司會

伊藤 由佳理 (日本学術會議第三部會員、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授)

- ・趣旨説明

齋藤 政彦 (日本学術會議第三部會員、神戸学院大学経営学部教授)

- ・ 文部科学省研究振興局関係者による講演
- ・ 経済連合会関係者による講演  
江村 克己（日本学術会議連携会員、日本電気株式会社NECフェロー）
- ・ 諸科学と数学の連携の可能性
- ・ 関連学協会及び研究機関による講演  
一般社団法人日本数学会、一般社団法人日本応用数理学会、統計関連学会連合、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所、京都大学数理解析研究所
- ・ 総合討論
- ・ 閉会の挨拶  
小澤 徹（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院先進理工学部応用物理学科教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会  
「潜在的なエネルギー・資源 (Future Resource) に着目した学術研究」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議、佐賀大学
2. 後 援：佐賀県、佐賀市、伊万里市、唐津市、嬉野市、有田町、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州短期大学、放送大学佐賀学習センター、公益財団法人日本学術協力財団（全て予定）
3. 日 時：令和5年3月14日（火）14：00～16：15
4. 場 所：佐賀大学理工学部6号館1階講義室（佐賀県佐賀市本庄町）  
（ハイブリッド開催）
5. 分科会等の開催：同日12：00～13：30に科学者懇談会を開催予定

6. 開催趣旨：

近年、世界的に大規模な森林火災や干ばつなど、地球温暖化による気候変動を起因とする自然災害が増加しており、それにより、経済的な損失のみならず、自然環境や生態系へも様々な影響を与えています。このため、経済成長と環境保全との両立が課題となっており、これらの課題解決のため、我が国においても、温室効果ガスを発生させないグリーンエネルギーに転換することで、産業構造や社会経済を変革し、成長につなげるグリーントランスフォーメーション (GX) の推進が求められています。そうした中で、地域社会への貢献だけに留まらず、国際社会への貢献を視野に入れたグリーンエネルギーの活用や省エネルギー化に関する学術研究の成果について紹介し、その意義について地域社会における理解を深めます。

7. 次 第：

14:00～14:15 開会挨拶

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学卓越教授、東京大学宇宙線研究所・教授）  
出原 賢治（日本学術会議連携会員、佐賀大学医学部医学科分子生命科学講座教授）  
兒玉 浩明（佐賀大学長）

14:15～14:45 講演①

「海洋温度差発電を核としたSDG s 社会実装モデルの構築－「KUMEJIMA MODEL」と「知の世界展開」－」

池上 康之（佐賀大学海洋エネルギー研究所所長・教授）

14:45～14:55 休憩

14:55～15:25 講演②

「超大型浮体式洋上風力発電システム技術の研究開発」

吉田 茂雄（佐賀大学海洋エネルギー研究所副所長・教授）

15:25～15:35 休憩

15:35～16:05 講演③

「ダイヤモンド半導体－Beyond5G、EV、宇宙応用を目指した次世代パワー半導体－」

嘉数 誠 (佐賀大学理工学部理工学科電気電子工学部門教授)

16:05～16:15 閉会挨拶

玉田 薫 (日本学術会議第三部会員、九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学主幹教授・副学長)

司会進行：弓削 こずえ (日本学術会議連携会員、佐賀大学農学部生物資源科学科食資源環境科学コース教授)

8. 関係部の承認の有無：科学者委員会

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

## 公開シンポジウム

「グリーントランスフォーメーションに挑む応用物理：持続可能な未来社会に向けて」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会、公益社団法人応用物理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月15日（水）13：30～17：50
5. 場 所：上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区紀尾井町7-1）  
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

## 8. 開催趣旨：

地球温暖化の可能性が議論されるなか、将来の気候変動リスクの低減に向けた2050年カーボンニュートラルの目標達成を見据え、より広範囲の産業、社会、経済の改革を含めたグリーンエネルギーへの転換（グリーントランスフォーメーション：GX）に向けた各種プロジェクトが世界中で始まっている。このGXには応用物理分野が様々な角度から寄与している。本シンポジウムでは、応用物理学会がまとめたWebコラム「GXに挑む応用物理」（<https://www.jsap.or.jp/columns/gx>）に基づき、GXの進展に寄与する応用物理の役割を一線の研究者にご講演いただくとともに、未来社会に向けた分野横断的な知の融合の進展によるイノベーションの創出をどのように図るか等を議論する機会とする。

## 9. 次 第：

注：講演者、講演内容が確定後、時間、講演順等については、再度調整する。

オープニング

13:30 趣旨説明

筑本 知子（日本学術会議第三部会員、中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授）

応用物理学会会長挨拶

平本 俊郎 (公益社団法人応用物理学会会長、東京大学生産技術研究所教授)

### 第1セッション

司会：藤原 聡 (日本学術会議連携会員、NTT 物性科学基礎研究所上席特別研究員)

13:40 基調講演「実現すべき豊かな未来—GX、自律分散社会、そして Well-being—」

伊藤 智 (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術戦略研究センター デジタルイノベーションユニット長)

14:20 「半導体製造グリーン化に向けた学術的課題：大量電力消費型産業からの脱却へ」

堀 勝 (日本学術会議連携会員、名古屋大学低温プラズマ科学研究センター教授、センター長)

14:50 「GX に貢献する超伝導技術」

筑本 知子 (日本学術会議第三部会員、中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授)

休憩 (15 分) (15:20～15:35)

### 第2セッション

司会：板垣 奈穂 (日本学術会議連携会員、九州大学大学院システム情報科学研究院教授)

15:35 「主力電源としての太陽光発電技術—カーボンニュートラル社会の実現に向けてどのような太陽電池が必要となるか？」

小長井 誠 (日本学術会議連携会員、東京都市大学総合研究所特別教授)

16:05 基調講演「カーボンニュートラル実現に貢献する蓄電池技術」

小林 弘典 (国立研究開発法人産業技術総合研究所総括研究主幹)

休憩 (15 分) (16:45～17:00)

17:00 パネルディスカッション

「GX の推進には、今、応用物理分野に何が必要か？—産官学・学会の役割、人材育成、など—」

モデレータ：下山 淳一 (青山学院大学理工学部教授)

登壇者：秋永 広幸 (国立研究開発法人産業技術総合研究所総括研究主幹)、他

17:50 クロージング

下山 淳一 (青山学院大学理工学部教授)



10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



公開シンポジウム  
「18歳と司法参加—裁判員、検察審査員」（仮）  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会
2. 共 催：科学研究費補助金（基盤C）「裁判員制度を被告人の権利の観点から検証する研究—諸外国の市民参加型裁判との比較」（研究代表者：平山 真理）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月17日（金）13：00～16：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：  
法改正により2022年4月1日から裁判員や検察審査員になることが出来る年齢が「18歳以上」に引き下げられたことに鑑み、この改正の意義と課題について、まず最初に、これまで市民の司法参加制度を専門に研究してきた専門家（2名）による基調講演を行う。  
基調講演での問題提起等を踏まえつつ、続くパネルディスカッションにおいては、ファシリテーターが冒頭に検討課題についての報告を行ったうえで、当事者である高校生や大学生が司法参加に対してどのような期待や疑問、あるいは不安を抱いているかについて語ってもらい、基調講演者やコメンテーターも交えて議論を行う。  
パネルディスカッションでは、とくに18歳以上として高校生や初学年の大学生であっても司法参加が求められるようになったことで、今後、高校や大学の教養教育においてどのような法教育の在り方が求められるかについても焦点をあてて議論する予定である。
9. 次 第：  
全体司会・趣旨説明  
平山 真理（日本学術会議連携会員、白鷗大学法学部教授）

13:00～13:10 挨拶

三成 賢次（日本学術会議第一部会員、大阪大学理事・副学長）

13:10～13:40 基調講演①「統治主体としての国民と18歳からの司法参加」（仮題）  
四宮 啓（國學院大學法科大学院教授・弁護士）

13:45～14:15 基調講演②「若者の司法参加の意義ーヨーロッパからの教訓」（仮題）  
Dimitri Vanoverbeke（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

14:15～14:30 休憩

14:30～16:00 パネルディスカッション

「18歳から裁判員、検察審査員になるということー意義と課題」

ファシリテーター・報告（課題整理等）：

平山 真理（日本学術会議連携会員、白鷗大学法学部教授）

ディスカッサント：

基調講演者2名

湘南白百合学園（神奈川）の高校生・教員（予定）

中央大学杉並高等学校（東京）の高校生・教員（予定）

コメンテーター：松本 尚子（日本学術会議連携会員、上智大学法学部国際関係法学科教授他1名（予定）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「これからの半導体産業を牽引する人材育成と産学連携」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議電気電子工学委員会デバイス・電子機器工学分科会、公益社団法人応用物理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月17日（金）13：45～ 18：30
5. 場 所：上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区紀尾井町7-1）  
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定
8. 開催趣旨：  
最近大きな国家的課題となっている我が国の半導体産業復権に向けて、重要な課題の一つが人材育成であると考えられる。本シンポジウムでは、半導体産業復活のための人材育成の考え方とその道筋について、産官学それぞれの立場からの講演とパネルディスカッションを通じて、理解を深めると共に、そのあるべき形や将来の方向性について議論する。
9. 次 第：
  - 13:45-13:50 ご挨拶 平本 俊郎（公益社団法人応用物理学会会長、東京大学生産技術研究所教授）
  - 13:50-14:00 趣旨説明 大橋 弘美（日本学術会議第三部会員、古河電気工業株式会社シニアフェロー）
  - 14:00-14:25 荒木 浩之（株式会社 SCREEN セミコンダクターソリューションズストラテジック・エグゼクティブ）

14:25-14:50 石丸 一成 (キオクシア株式会社メモリ技術研究所所長)

14:50-15:15 日高 秀人 (ルネサス エレクトロニクス株式会社フェロー)

15:15-15:40 青柳 昌宏 (熊本大学卓越教授)

15:40-16:00 休憩

16:00-16:25 常石 哲男 (東京エレクトロニクス株式会社取締役)

16:25-18:20 パネルセッション

司会：高木 信一 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)、  
森 勇介 (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工  
学専攻教授)

為近 恵美 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学成長戦略研究センター教授)

パネリスト

常石 哲男 (東京エレクトロニクス株式会社取締役)

山本 義継 (みずほ証券株式会社シニアアナリスト)

黒田 忠広 (東京大学大学院工学系研究科教授)

若林 整 (東京工業大学工学院電気電子系教授)

遠藤 哲郎 (東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター長)

青柳 昌宏 (熊本大学卓越教授)

井上 史大 (横浜国立大学大学院工学研究院准教授)

18:20-18:30 閉会の挨拶 中野 義昭 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系  
研究科電気系工学専攻教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組みー医療・ケア、倫理、政策の捉え直しと提案」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、臨床医学委員会老化分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本看護系学会協議会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月18日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。また、地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界が見られている。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な社会機能の崩壊が現実の課題として突き付けられた。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつであろう。

我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野及び問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味する。その中で科学者の地域貢献に関する役割を可視化する。この取組によって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現を目指す。

本シンポジウムは、with/after コロナ時代において、脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究及び課題への具体的な取組をシリーズで紹介し、ケ

アサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズ企画の第3弾では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって浮かび上がってきた、高齢者終末期医療として行われたことと課題、日本人が倫理的判断をするための基本価値と選択の方法、政府の感染予防策と適切な医療の確保に関する課題、そして誰もが突然ケアを必要とする人になり得る時代の課題と全国民が皆ケアラーになることの提案を基に、多分野の登壇者及び参加者の皆様との議論を通して、地域社会において共に生きることが成り立つために講じるべき策について検討する。

## 9. 次 第:

13:00 開会

司会

森山 美知子（日本学術会議連携会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）

山田 あすか（日本学術会議連携会員、東京電機大学未来科学部建築学科教授）

挨拶

13:05 武田 洋幸（日本学術会議第二部部長、東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授）

講演

13:10 『第2回公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の概要』

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授、一般社団法人日本看護系学会協議会理事）

13:20 『我が国における高齢者終末期医療の課題～コロナパンデミックが浮き彫りにした諸問題』

西村 正治（日本学術会議第二部会員、北海道呼吸器疾患研究所理事長、豊水総合メディカルクリニック医師、北海道大学名誉教授）

13:45 『功利主義と自由の問題』

河野 哲也（日本学術会議連携会員、立教大学文学部教育学科教授）

14:10 『感染予防策と適切な医療の確保の双方に関わる政策課題（仮）』

武藤 香織（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授）

14:25 『ウィズコロナ時代の地域社会とケア：すべての人にケアリテラシーを』

山本 則子（東京大学大学院医学系研究科教授）

休憩

15:00 指定発言



飯島 勝矢（日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構  
教授）

16:00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）



公開シンポジウム  
「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉  
～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催：日本社会福祉系学会連合、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟
3. 後 援：社会福祉法人全国社会福祉協議会、日本ソーシャルワーカー連盟（以上予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）3月26日（日）13：30～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本学術会議社会福祉学分科会が表出予定の見解「コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉～誰一人取り残さない制度・支援への改革～」に基づき、見解執筆者らによる提案の背景、意義、内容の報告に対し、外部有識者らからのコメントを踏まえ、誰一人取り残さない制度・支援への改革に向けた今後の展望について議論する。

9. 次 第：

司会 大和 三重（日本学術会議連携会員、関西学院大学人間福祉学部社会福祉  
学科教授）

挨拶

13:30 開会挨拶

保正 友子（日本学術会議連携会員、日本福祉大学社会福祉学部教  
授、日本社会福祉系学会連合会長、一般社団法人日本ソ  
ーシャルワーク教育学校連盟理事）

第 I 部 報告

13:35 趣旨説明及び「日常生活に支援を要する人の危機・リスクの低減と制  
度改革」

和氣 純子（日本学術会議第一部会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長）

13:55 「生活困窮者における危機・リスクの低減と危機における差別防止と制度改革」

原田 正樹（日本学術会議連携会員、日本福祉大学社会福祉学部教授、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟理事）

14:15 「子ども家庭における危機・リスクの低減と制度改革」

山野 則子（日本学術会議連携会員（特任）、大阪公立大学現代システム科学研究科教授）

14:35 「女性における危機・リスクの低減と制度改革」

湯澤 直美（日本学術会議連携会員、立教大学コミュニティ福祉学部教授）

休憩（10分）（14:55～15:05）

第Ⅱ部 コメント・討論

15:05 和田 肇（日本学術会議第一部会員、名古屋大学名誉教授）

古都 賢一（社会福祉法人全国社会福祉協議会副会長）

稲葉 剛（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科客員教授）

挨拶

15:55 閉会挨拶

竹本 与志人（日本学術会議連携会員、岡山県立大学保健福祉学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： パンデミックと社会に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「計算音響学の目指すもの」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本音響学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合（調整中）
3. 後 援：公益社団法人自動車技術会、公益社団法人日本騒音制御工学会（調整中）
4. 日 時：令和5年（2023）年3月27日（月）11：00～17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）  
会議室6-C（1）（計算音響学小委員会開催のため）
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは主催分科会に設置されている「計算音響学小委員会」の活動を反映させたものである。当小委員会では、音の発生、音の伝播、聴覚器官による音響感覚、音楽、騒音等、音に関するあらゆる現象を扱うなど、その領域は物理学・工学・心理学・感性工学・生理学など多くの分野にわたる、まさに総合工学である。これまで、スーパーコンピュータを用いた「コンサートホールの音響」のシミュレーション、AIと音質シミュレーション、楽器の発音機構のモデリングとシミュレーションから作曲に至るまで実機を用いず感性の領域までバーチャル・シミュレーション（MBD）の議論に至っている。ドイツではこの動きを第4次産業革命と位置付け「インダストリー4.0」が精力的に進められているが、当小委員会では「インダストリー4.0」などでは見られない感性とも融合させている。このような動きを我が国でも組織的に検討すべき時が来ており、その加速の一助とすべく本シンポジウムを開催する。

9. 次 第:

11:00 挨拶

越塚 誠一 (日本学術会議連携会員、東京大学工学系研究科システム創生学専攻教授)

11:05 開催の趣旨

吉村 卓也 (日本学術会議特任連携会員、東京都立大学システムデザイン研究科機械システム工学域教授)

司会 山本 崇史 (工学院大学工学部機械工学科教授)

11:10 「アンティーク・ヴァイオリンの振動と音場に関する数値解析」

横山 真男 (明星大学情報学部情報学科教授)

11:40 「楽器の研究における計測とシミュレーションについて」

若槻 尚斗 (筑波大学システム情報系教授)

12:10-13:10 昼休み

司会 山本 崇史 (工学院大学工学部機械工学科教授)

13:30 「自動作曲の可能性と限界」

嵯峨山 茂樹 (東京大学名誉教授)

14:00 「観察と対話に基づく自律エージェントの音声言語獲得」

篠崎 隆宏 (東京工業大学工学院情報通信系准教授)

14:30 「音を直感的に表現するオノマトペの数値化」

坂本 真樹 (日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科総合情報学専攻教授、副学長)

15:00-15:10 休憩

司会 谷口 隆晴 (神戸大学大学院システム情報学研究科准教授)

15:10 「シンギング・リンの振動音響解析」

黒沢 良夫 (帝京大学理工学部機械・精密システム工学科教授)

「シンギング・リンの脳への影響」

満倉 靖恵 (慶應大学理工学部システムデザイン工学科教授)

15:50 「計算音響学と自動車」

石濱 正男 (明治大学客員研究員)

16:20 総合討論

司会 石濱 正男 (明治大学客員研究員)

コメンテーター 岡村 宏 (芝浦工業大学名誉教授)

コメンテーター 坂本 慎一 (東京大学生産技術研究所教授)

コメンテーター 満倉 靖恵（慶應大学理工学部システムデザイン工学科教授）

17：10 閉会の挨拶

萩原 一郎（日本学術会議特任連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究  
特別教授、東京工業大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）





公開シンポジウム  
「地球上の環境変動と生物リズム」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会・心理学・教育学委員会合同生物リズム分科会
2. 共 催：日本時間生物学会
3. 後 援：名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所
4. 日 時：令和5年（2023年）4月16日（日）13:00～15:50
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

地球の自転と公転により、気温、明るさ、湿度など、我々を取り巻く環境は1日、1年の周期で大きく変動している。生物はこれら繰り返し訪れる環境の変化に、より良く適応するために、進化の過程で約1日、1年など、様々な周期のリズムを刻む生物時計を身に付けてきた。目覚まし時計やストップウォッチを持たない生物が正確に時を刻めることは驚きであるが、最近の研究によって、生物時計の仕組みが分子のレベルで明らかになってきている。そのような精巧な仕組みによって規則的な環境の変化に適応している全ての生物にとって、温暖化など近年の急激な環境変動は大きな問題であり、生物リズムにも影響が及んでいる。本シンポジウムではこのような環境変動が、バクテリア、植物、昆虫の生物リズム、更にはヒトの身体に及ぼす影響について、分子、数理、生態、健康という切り口から話題を提供し、共通する問題点や解決策を探っていきたい。

9. 次 第：

司会

秋山 修志（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所教授）

吉村 崇（日本学術会議連携会員、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研

究所拠点長)

- 13 : 00 開会の辞  
深田 吉孝 (日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、日本時間生物学  
会前理事長)
- 13 : 10 講演 1 : 光合成で地球環境を支えるシアノバクテリア : 24 時間を刻む分子の仕組み  
寺内 一姫 (立命館大学生命科学部教授)
- 13 : 40 講演 2 : 環境変動に敏感な森林生態系のフェノロジー  
佐竹 暁子 (日本学術会議連携会員、九州大学大学院理学研究院教授)
- 14 : 10 講演 3 : 温暖化を知らせる昆虫の生活史の変化  
沼田 英治 (日本学術会議連携会員、京都大学人と社会の未来研究院特定教授)
- 14 : 40 講演 4 : 気候変動下におけるヒトの健康  
橋爪 真弘 (東京大学大学院医学系研究科教授)
- 15 : 10 視聴者からの質疑応答
- 15 : 40 閉会の辞  
尾崎 紀夫 (日本学術会議会員第二部会員・幹事、名古屋大学大学院医学系  
研究科特任教授)
- 15 : 50 閉会
10. 関係部の承認の有無 : 第二部承認
11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム  
「ヒトとサルの進化から考える社会と多様性」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同自然人類学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本人類学会、一般社団法人日本霊長類学会
3. 後 援：東京都生物教育研究会
4. 日 時：令和5年（2023年）6月17日（土）13：30～16：00
5. 場 所：東京大学理学部2号館講堂（東京都文京区7-3-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可  
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

霊長類と人類の進化に関わる適切な理解は、科学的な人間観と地球観の形成に必要不可欠であり、長期研究によって累積的に積み上げられてきた。本シンポジウムでは、そうした研究現場から、単純な「優劣」や「競争」といったイメージとは異なる、複雑な進化プロセスとその側面について、いくつかの分野から紹介する。その上で、高校教育現場の者と対話し、「ヒト」の理解の普及に資する。

9. 次 第：

13:30 開会の挨拶

村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

第1セッション「ヒトとサルの進化から学ぶ」

司会

海部 陽介（日本学術会議連携会員（特任）、東京大学総合研究博物館教授）

13:35 『色覚の進化と多様性、「色覚異常」は異常ではない。』

河村 正二（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

13:55 『ニホンザルの社会性、寛容な社会と専制的な社会』

中川 尚史（日本学術会議連携会員（特任）、京都大学大学院理学研究

科教授、一般社団法人日本霊長類学会会長)

14 : 15 『寛容と協力により保たれるボノボのメス優位・中心社会』

徳山 奈帆子 (京都大学野生動物研究センター助教)

14 : 35 『初期の猿人から新人まで、進化は適者生存か?』

諏訪 元 (日本学術会議連携会員、東京大学特任教授)

休憩 (15分) (14 : 55~15 : 10)

15 : 10 第2セッション「教育現場との対話」

司会

米田 穰 (一般社団法人日本人類学会理事、東京大学総合研究博物館教授)

東京都生物教育研究会所属の教員からコメント (若干名) と総合討論

16 : 00 終了

10. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

## ○国内会議の後援（4件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム

主催：公益社団法人日本工学会

期間：令和5年3月4日（土）13:00～17:00

場所：オンライン開催

参加予定者数：約100名

申請者：公益社団法人日本工学会 会長 岸本 喜久雄

審議付託先：第三部

**審議付託結果：第三部 承認**

2. 「土と肥料」の講演会

主催：一般社団法人日本土壌肥料学会

期間：令和5年5月20日（土）14:30～16:00

場所：東京大学山上会館

参加予定者数：約100名

申請者：一般社団法人日本土壌肥料学会 会長 妹尾 啓史

審議付託先：第二部

**審議付託結果：第二部 承認**

3. 第19回日本社会福祉学会フォーラム

主催：一般社団法人日本社会福祉学会

期間：令和5年3月11日（土）13:00～16:30

場所：オンライン開催

参加予定者数：約100～200名

申請者：一般社団法人日本社会福祉学会 会長 空閑 浩人

審議付託先：第一部

**審議付託結果：第一部 承認**

4. 化学工学会第88年会シンポジウム「SDGs達成に向けた札幌宣言の実行ーありたい未来社会のための化学工学ー」

主催：公益社団法人化学工学会戦略推進センターSDGs検討委員会

期間：令和5年3月17日（金）

場所：東京農工大学（オンライン併用開催）

参加予定者数：約100名

申請者：公益社団法人化学工学会 会長 松方 正彦

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

## ○今後の予定

## ●幹事会

第338回幹事会      令和5年 2月22日（水）      14：30から

第339回幹事会      令和5年 3月23日（木）      14：30から

以降の幹事会日程は追って調整

## ●総会

第187回総会      令和5年4月17日（月）～19日（水）

※なお、日本学術会議法の改正など「政府方針」をめぐる動向によっては、臨時総会の開催の可能性を含め、ここに記載の総会の日程は変更の可能性がります。